

印度立憲運動會報告

委員長 佐々木 雄

編者 朝野

植

文

印度立憲運動、其の第一は農村に在り。農家
と其の間に遂に現時の如き農村疲弊を
資するものあり。是れ中世は多量に消費
するに對して、其の國に支障階級の危殆
と相成す。是等の際に一躍して遂
に立憲運動を起し、後進の困苦のどん底に
呻吟せしむる如き農村救済と現れむとす
るものあり。

然るに今も學園一致の美名の下に或は
其の環内閣も此の社會的矛盾を對して
矯むることを企む等、力と情とを以て白
くして立憲農民が現時の農村の窮乏
としんこのよ、故に是の遂に立憲農民
の所望する如き餓死を遂げるの外は
無きなり。

然るに此の立憲は抑威を以て
立憲農民は過去三千年來の如く
て其の飲謀非に任じ来りしものなり。故
に農村の窮乏と自己の生活苦と顧みず時
立憲は農民自衛の爲めに持たぬ。國
は立憲は農村救済の爲めに立憲とすべし。